

東京農大の国際人材育成

現在でも東京農大の卒業生は毎年 20~30 名が協力隊に参加しています。協力隊の活動を経験した卒業生は帰国後に日本各地の農業生産者になっているほか、種苗会社、食品会社、農機具メーカー、農協・地方公務員として地域で活躍しています。最近では大学院での学び直しを希望する協力隊 OB が増えており、修了後には開発コンサルタントなどへ就職しています。学部学生の目を海外へ向けさせるカリキュラムは多くが国際農業開発学科（以下開発学科）におかれています。表は東京農大及び開発学科が実施している実践的な農業実習・研修プログラムです。開発学科が所管する海外農業実習の受け入れ先は、海外に在住する移住者や JICA 専門家並びにオイスカや海外農業交流者協会などの研修機関です。毎年 10 数名が 6 ヶ月以上の実習で経験を積むためにチャレンジしています。国際協力センターが所管する各種プログラムは海外協定校との協働研修で、毎年 100 名以上の参加があります。学生たちはこれらのプログラムをとおして、将来の海外での活動に対するモチベーションを高めていきます。

表 実践的な農業実習・研修プログラム

| プログラム名 | 内容 | 期間（単位数） | 所管 |
|---|-----------------------|----------------|----------|
| 農業総合実習 | 1 年生・農業基礎技術 | 5 日間（2） | 開発学科 |
| 農業専門実習 | 2 年生・農業専門選択 | 1 年間隔週（2） | 開発学科 |
| 農業開発実習 | 3 年生・宮古島 | 7 日間（2） | 開発学科 |
| ファームステイ | 2 年生以上・農家実習 | 14 日間以上 （2） | 開発学科 |
| 海外農業実習（一） | 2 年生以上・農家農場実習 | 14 日間以上 （2） | 開発学科 |
| 海外農業実習（二） | 2 年生以上・農家農場実習 | 30 日間以上 （4） | 開発学科 |
| 海外農業実習（三） | 2 年生以上・農家農場実習 | 3 ヶ月以上（6） | 開発学科 |
| Comprehensive International Education Program | 座学、農業実習、ワークショップ・英語で実施 | 2 週間（6） | 国際協力センター |
| JICA 稲作研修 | JICA つくばセンター（学年を問わず） | 2~3 週間 | 国際協力センター |
| JICA 野菜栽培研修 | JICA つくばセンター（学年を問わず） | 2~3 週間 | 国際協力センター |
| 熱帯農業プログラム | タイ：農業実習・研修（学 | 2 週間（2） | 国際協力セ |

| | | | |
|----------------|-------------------------|---------|----------|
| | 年を問わず) | | ンター |
| 熱帯環境エコロジープログラム | インドネシア：農業実習・研修 (学年を問わず) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| 亜熱帯農業プログラム | 台湾：農業実習・研修 (学年を問わず) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| 中国農業プログラム | 農業実習・研修 (学年を問わず) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| メキシコ農業プログラム | 農業実習・研修 (学年を問わず) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| アメリカ農業プログラム | 農業実習・研修 (2年生以上) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| タンザニア農業プログラム | 農業実習・研修 (学年を問わず) | 2週間 (2) | 国際協力センター |
| アグロフォレストリーコース | ブラジル：アマゾン農業実習 (2年生以上) | 3週間 (2) | 国際協力センター |

海外農業実習及び協力隊は農業開発の専門家を育成するエントリーポイントとして有効でしたが、近年では開発途上国の農業技術の向上並びに社会問題の複雑化に伴って専門家には高い技能や知識が求められています。高度な専門家を育成するためには農業実習や研修だけでは不十分で、実践的なアクティブラーニングで実務の運営能力を身につけることが不可欠になっています。さらに、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に代表される世界の問題に対応できる人材を育成するためには大学院での修学により専門性を高めることも必要と考え、東京農大では国際協力機構と包括連携協定 (2016 年) を結び、2017 年から大学院生を協力隊に派遣する制度 (長期派遣制度) を開始しました。